

第 624 回 新潟放送番組審議会 議事録

— 議題 —

テレビ番組
「B S Nスペシャル 俺は工場の鉄学者」



平成 29 年 1 月 18 日

BSN新潟放送

第624回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成29年1月18日（水）午前11:00～

2. 開催場所 新潟市中央区 新潟放送 6F

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員	相羽利子	委員	古賀豊
委員	小島良子	委員	細田康
委員	高木言芳	委員	池田幸博
委員	服部誠司	委員	小原清文

○委員側欠席者

委員	正道かほる	委員	佐藤元
----	-------	----	-----

○放送事業者側出席者

社長	竹石松次	営業局長	斎藤和利
編成局長	島田好久	報制局長	太田志信
ラジオ本部長	高坂元己		

事務局出席者

事務局長 増山由美子(広報部長)

事務局員 丹羽崇(社長室長)

4. 議題

1 新委員のご紹介 番組審議委員長並びに副委員長選出

2 報告事項 2・3月の新番組、単発番組について(各局長)

3 審議番組 テレビ番組 「B S Nスペシャル 僕は工場の鉄学者」
(2016年12月31日(土)9時55分～10時50分放送)

5. 議事の概要

審議会のはじめに、竹石社長より12月で退任された佐々木広介委員に代わり就任の

小原清文（おばら きよふみ）新委員の紹介があった。

続いて、今年度の委員長に相羽利子委員、副委員長に古賀豊委員が選出された。

次に各局長からの 2017 年 2・3 月度番組報告に続いて、

テレビ番組「B S Nスペシャル 僕は工場の鉄学者」について審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見・質問～

- とても良い番組。全国向けに放送してもよい内容だった。今までのドキュメンタリー番組に比べて人とモノを紹介する映像がしっかりと使い分けられていたが、どういう視聴者を対象にした番組なのかよく分からなかった。また、2 人の主人公のうち、1 人がフライパンの取っ手作りで苦労していたようだが、失敗した場面だけが放送され、成功した場面がなくて、完成した製品のみが紹介されていて、苦労があまり伝わらなかつた。
- 導入部がかっこよく、引き込まれた。主人公が徹底した論理的裏付けに基づいて学術的なアプローチを行い、かつそれをふりかざすことなく取り組んでいる姿が印象に残った。工場の祭典が紹介されていて、番組にとって必要なシーンかとは思ったが、個人的には何度も見た催しで、もういいかなとも思った。
- 三条は金属加工業の産地として厳しい状況にあるが、新しい職人の姿にスポットを当てた番組で、高校生のキャリア教育につながる良い内容だった。また、気軽に見ることができて面白く、街中のネットワークや三条地域の産業構造もバランスよく描かれていた。男性ナレーターの声が良かった。昨年は年末に色々あったが、頑張っていこう、何とかしようという気にさせられる番組だった。
- とにかく面白くて引き込まれた。昔気質の職人ではなく今の職人としての苦労も描いていた。もっと硬派な内容を想像して見始めたがナレーションがあまりにもポップな感じで、このテンションに最初は違和感もあったが、後半は全く感じなかった。むしろナレーションに引き込まれた部分もあり、作る工程も見ていて楽しかった。
- 勉強になることを紹介してくれた、良い番組だった。経験と勘だけを頼りにする職人ではなく、「機械と人」という、現代の新しいモノづくり、職人像が分かった。また、あきらめない、できるまでやる、という昔からの職人気質も感じられ、私達も仕事にいかにやりがいや誇りを持つか、機械にだけ頼っていてはだめだということを改めて感じさせてくれた。
- 楽しく、興味深く拝見した。一時間番組だが、長く感じなかった。見終わって、温かい気持ちになった。金属産地の底力をしっかりとらえていた。厳しい状況を乗り越えていく方向性も提示されていた。悩みと希望を持ちながら前に進もうとする人間の姿

勢が明確に描かれていた。国内外ときめ細かい取材の積み重ねによる成果が出ていた。番組完成までどれくらいの期間をかけたのか聞いてみたい。主人公の2人でなければ出てこない言葉や表情を上手にすくいとっていた。くっきりと番組のテーマを分からせた。ナレーションの力も大きかった。ナレーターの男性は新潟出身というだけでなく実力もあると思った。モノづくりの職人魂や世界に打って出る心意気などがしっかりと織り込まれていた。産地の今を伝えて、将来の展望も持たせてくれた。折に触れて、こうした意欲的な作品を今後も放送してほしい。

- 見終わって元気が出た。私も以前、県央地域に赴任していたが、現地の雰囲気が非常に良く描かれていた。どの程度の期間で制作された番組なのか知りたくなった。この番組はモノづくりの未来を考えてもらうことがテーマだと思うが、燕三条は一大金属加工基地であり、高度な技術力を踏まえて、最終的には手作業による調整という、産地の強みを紹介できたのではないか。
- 完成度の高い番組。日常のシーンから非日常の世界に入っていく感じで見始めた。モノづくりは職人のこだわりが強く、その人の価値観を他人に見せる、いわばアーチスト的な要素があるが、ビジネスとして考えた場合、相手の価値観を知ることが大事で、三条はアートとビジネス、さらにコミュニケーションが融合されて、世界の三条になっていると強く感じた。その意味で、番組を作る人たちも哲学、人間力を持っていないとダメで、B S Nの凄さを強く感じた、良い番組だった。

～新潟放送 報道制作局情報センター 内藤亜沙美ディレクターから～

- 貴重なご意見を頂き、ありがとうございます。ドキュメンタリーを制作する際、主人公ありきのスタイルが一般的かもしれないが、良い物が見直される時代にあって、後継者不足やアジアの安い製品にどう打ち勝つかなど燕三条のモノづくりを改めて描きたいという思いから始まった番組。その際、誰を主人公として描くか、昨年の春ごろから企画を考え、夏までリサーチを続け、ようやく2人に絞り込んだ。取材は夏から冬まで半年に及んだ。2人は顕微鏡をのぞく所が共通項で、「鉄学者」のタイトルが浮かんだ。さらに、取材を通じて、一般の人々にも届く人生哲学、生きるヒントも発見したので、その意味も込めた。固いイメージの内容を想像させたと思うが、大みそかに家族で見るテレビなので、経済番組ではなく、エンターテインメントの要素を取り入れることで、多くの人に見ていただけたのではないか。様々な取材を行ったので構成に苦労した。フライパン作りの成功シーンも取材はしたが、割愛させてもらったので、今後はニュース番組などで継続して紹介したい。また、全国向けに放送する予定もあり、より多くの人に届けたい。これからも、すごい人、頑張る人を番組として応援していきたい。

【文責・番組審議会事務局】